

ホクレン営農支援情報

(2019年6月号)

●春播き小麦の新品種開発を目指して 《長沼研究農場 畑作物開発課》

ホクレン長沼研究農場では、春播き小麦の品種開発を行っています。

品種開発は、特徴のある形質を持つ品種などを親として交配を行い、そこから得られた新たな品種候補のなかから優れたものを選抜する作業の繰り返しです。圃場では一畝毎に（場合によっては一株毎に）異なる品種候補を播種し、収量や品質、耐病性な

どを評価します。播種作業の多くは手作業となるため、職員総出で作業を行っています。この作業風景は長沼研究農場の春の風物詩です。

8月上旬ごろまでは、圃場でさまざまな品種候補をご覧いただけます。視察も受け入れておりますので、ご興味のある方は畑作物開発課までご連絡ください。(Tel.0123-88-3331)

主な品種開発目標

多収

高い製パン適性

穂発芽耐性

赤かび病抵抗性



春播き小麦の播種の作業

●人参の品種比較試験を開始 《長沼研究農場 園芸作物開発課》

4月23日に、本年度の人参の品種比較試験にかかる第1回目の播種を実施しました。園芸作物開発課では業務加工用および青果用の品種開発を目標としていますが、今回播種を行った作期は主として青果用品種を対象とした試験です。連休後、順次出芽が始まり、8月ご

ろに収穫調査を行う予定です。

当課では、視察受け入れも行っています。ご興味のある方は、園芸作物開発課まで。

(Tel.0123-88-1990)



● コムギ縞萎縮病について 《長沼研究農場 営農技術課》

コムギ縞萎縮病は土壌伝染性のウイルス病です。小麦生産における重要病害として知られ、現在道内外で広く発生が確認されています。北海道では融雪後の4月～5月上旬に写真のような黄化や萎縮症状が見られます。ウイルスを媒介する菌は土壌中に長く残存するため、最も有効な対策は抵抗性品種の導入です。

ホクレン農総研では、小麦の安定生産への貢献を目指し、病原体の動態に基づく有効な対策手段について試験研究を行っています。



●ホクレン訓子府実証農場で JGAP 認証を取得 《訓子府実証農場 農産技術課》

ホクレン訓子府実証農場はこの度、野菜栽培（ほうれんそう）で JGAP 認証を取得しました。取り組みの目的は、「GAP の具体的な活動や進め方などの情報を集めて JA や生産者に伝える」こと。2018 年から取り組みを開始し、施設の改修やマニュアルの整備、審査の受審などを経ての取得となりました。

担当した農産技術課の佐久間主幹は「GAP に取り組む以前は面倒なイメージもありましたが（実際に、認証を取得するには手続きなど面倒な点も少なからずありました）、GAP に取り組むだけでも、農場経営に役立つメリットがたくさんあることを実感しました」という感想を持ちました。

GAP のメリットについて、アグリポート 19 号（6 月 1 日発刊）でご紹介していますのでご興味がある方はぜひ参考にしてください。



新たに整備した「農場管理マニュアル」



現地審査受審の様子

●倶知安で「農家で働くオシゴト説明会」を開催 《倶知安支所 営農支援室》

JA ようていとホクレン倶知安支所は、「農家で働くオシゴト説明会」を 4 月 19 日に開催しました。この説明会は昨年に引き続き 2 回目。今回は、市街地在住の方に加え、冬期にスキー場へ働きに来ている方もターゲットとして実施しました。

説明会では、生産者と JA の担当者から管内で生産している作物やパート作業の仕事内容などについて紹介しました。また、「トイレはあるのか?」「休みはとれるのか?」「どんな格好がよいか?」「初心者でも大丈夫か?」など、よくある質問には Q&A 方式で答えるなど、説明も工夫。最終的には、昨年を上回る 13 名の方にパート登録していただきました。



説明会の様子



パート登録する来場者

●厚真町災害復旧「鹿侵入防止柵設置作業」を支援 《苫小牧支所 営農支援室》

4月30日に、ホクレン苫小牧支所営農支援室から2名、JA北海道中央会札幌支所から2名が参加し、厚真町において鹿侵入防止柵設置作業を手伝いました。

厚真町では震災前に設置されていた約46kmの鹿柵のうち38kmが損害を受けたため、4月23日～5月5日までの期間に再設置作業を実施しました。作業当日は、地元農家、町役場職員、北海道職員、JA職員にボランティアが加わり、総勢30数名が3班に分かれて作業を開始。未だ震災の爪痕が残る作業現場で復興を祈りながら作業を行ないました。



● 担い手向け研修会（ICT 等新技術）を訓子府で開催 《営農支援推進課》

ホクレンでは、平成 28 年度より就農年数の浅い担い手生産者を対象とした研修会を実施しています。目的は「基礎知識の習得」「担い手同士のつながりを深める」ことです。

今年度から新たな研修テーマとして「ICT 等新技術」を設定しました。また、研修会場はホクレン訓子府実証農場とし、初めてオホーツク管内で実施することとなりました。生産現場で活用できる ICT 技術等の習得を目指し、下記の内容で実施予定です。参加を希望される方は、JA を通じてホクレン各支所営農支援室までお願いします。

【開催日時】 令和元年 7 月 10 日（水）13:00～11 日（木）13:50（予定）

※1 泊 2 日の合宿研修

【開催場所】 ホクレン訓子府実証農場（訓子府町字駒里 184-7）

【受講対象】 ICT 技術等の習得を目指す担い手生産者（就農後、概ね 5 年以内）

【研修内容】 スマート農業の概要、リモートセンシングの基礎知識、自動操舵・ガイダンスの基本操作、小麦の安定生産に向けて、自動操舵トラクターの試乗（大型・中型）、可変施肥のデータから運用までの実演、総合討論（意見交換） 等



【申込方法】 JA を通じて、ホクレン各支所の営農支援室へ。

● 「ホクレン RTK システム」の紹介動画を公開 《営農支援推進課》

GPS ガイダンスシステムで高精度な農作業を行うために必要となる補正情報をスマートフォンなどで簡単に利用できる「ホクレン RTK システム」が 4 月 1 日から本格稼働しています。現在、道内の 24JA、利用者 ID 数約 1,100（5 月 10 日時点）がこの取組みに参加しており、今後も増加する見込みです。

この度、本システムの概要をわかりやすく紹介した動画を右記の URL で公開しました。システムに興味のある方はホクレン各支所営農支援室または JA までお問合せください。



● アグリポート 19 号を発刊 《営農支援推進課》

6月1日にアグリポート19号を発刊しました。特集は「気候変化に負けない」です。

大雨や台風などの自然災害が発生するとその影響は大きくなりがちですが、それでも被害を最小限にするための備えはできるものです。「圃場の排水性改善」

「ハウスの補強」「牧草生産の収穫時期の分散」などについて紹介しています。これからの時期でも実施できる対策もあるため、ぜひ参考にさせていただきたいと思います。



● あぐり王国北海道 NEXT で「MA フィルムを利用したブロッコリーの輸送技術開発」を紹介 《食品流通研究課》

食品流通研究課では、平成 27～28 年度に道総研 花・野菜技術センターと共同で「MA フィルムを利用したブロッコリーの輸送技術開発」に取り組みました。

MA フィルムとは、農産物を入れた袋内の酸素や二酸化炭素濃度を調整することで鮮度保持の効果がある特殊なフィルムです。ブロッコリーの輸送では、氷を封入した発泡箱の利用が一般的ですが、MA フィルムを利用することで輸送時のコストや手間を少なくすることができます。

今回、その研究内容が「あぐり王国北海道 NEXT」で紹介されることになりました。ぜひご覧ください。

【放送概要】

- ・番組名 あぐり王国北海道 NEXT（HBC 北海道放送）
- ・放送日時 令和元年 6 月 8 日（土）17:00～（予定）

発行：ホクレン農業総合研究所 営農支援センター 営農支援推進課

Tel. 011-788-5467 E-mail. einousiensuisin@hokuren.jp